

- 11～13日、衆議院震災復興特別委員会一行のウクライナ訪問
- 16～19日、森文部科学副大臣のウクライナ訪問

A. 主な動き

1. 内政

▼ティモシェンコ前首相に対する刑事訴追

・17日、検事総局は、「ウクライナ統一エネルギー・システム」社に関する刑事訴追につき、ティモシェンコ前首相に対する取り調べを継続。同日、同前首相は、ヴラセンコ「ブロック・ユーリア・ティモシェンコ」(BYT)議員を同刑事訴追における弁護人として認めるよう要求する旨の声明を発表。

・17日、キリレンコBYT最高会議会派代表は、ティモシェンコ前首相の釈放を目的とした刑法の規定改正に関する野党発案の法案への支持を多数派与党に要求。これに対し、同日、エフレモフ地域党最高会議会派代表は、多数派与党は同要求には応じられない旨発言。

・18日、BYT議員は、ティモシェンコ前首相の釈放を目的とした刑法の規定改正に関する野党発案の法案への支持が得られなかったことを非難、最高会議の解散を要求し最高会議演台を封鎖。

・20日、ヴラセンコBYT議員は、2009年対露ガス価格契約に関するキエフ市ペテルスク地区裁判所の判決に対する控訴の準備が完了しつつある旨発言。

▼刑事訴追に関する大統領の反応

・17日、ヤヌコーヴィチ大統領は、欧米政府関係者は司法機関の活動に干渉していないとの自分の発言を聞くことを拒否している印象を受ける旨指摘、自分は刑法を改正してティモシェンコ前首相を釈放させる義務を負ってはいない旨発言。

・17日、ミロシュニチェンコ最高会議大統領全権は、ヤヌコーヴィチ大統領が刑法改正をティモシェンコ前首相の釈放のために用いるよう最高会議に提案することはない旨発言。

・20日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ティモシェンコ前首相に関する裁判審議の際には、米国及びロシアで継続されている裁判プロセスを考慮する必要がある旨発言。

▼最高会議の動き

・18日、最高会議は、夏・冬時間制度の廃止に関する9月20日の決定を無効とする決定を採択。

・21日、リトヴィン最高会議議長は、最高会議選挙改正案は委員会審議に付される必要があるため、本会議での審議開始まであと一ヶ月程の時間が必要である旨発言。

▼世論調査

[ラズムコフ研究所]

・ヤヌコーヴィチ大統領の支持率

完全に支持する:10.0%、部分的に支持する:30.0%、支持しない:54.6% 等

・ティモシェンコ前首相の支持率

完全に支持する:14.3%、部分的に支持する:22.1%、支持しない:56.7% 等

・ヤツェニューク「変化の前線」党首の支持率

完全に支持する:11.9%、部分的に支持する:34.7%、支持しない:44.2% 等

・調査は9月29日から10月4日にかけて2,009名の成人を対象に実施。標準誤差は2.3%以内の由。

2. 経済

▼マクロ経済

・17日、国家統計局は、9月の工業生産高を昨年同期比6.4%増加、年初より9月までの工業生産高を昨年同期8.6%増加と発表。

・18日、欧州復興開発銀行(EBRD)は、2011年のウクライナのGDP成長率を5%から4.5%に下方修正。

▼IMF

・18日、チギブコ副首相兼社会政策相は、年内にIMFからの30億ドルに上るダブル・トランシェを期待する旨発言。

・20日、ウクライナのIMF常駐代表部は、10月25日～11月4日までIMFミッションがスタンドバイ融資合意直しのため、ウクライナを訪問する旨発表。

▼ガス問題

・18日、アザーロフ首相は、プーチン露首相との会談においては、毎月の露ガス代金支払いに関し、ドル決済から露ルーブル決済へ移行する可能性につき協議した旨発言。

・19日、ヤヌコーヴィチ大統領は、露とのガス価格交渉は10月末までに解決できるものと期待している旨発言。

3. 外政

▼18日、メドヴェージェフ露大統領の来訪

・ヤヌコーヴィチ大統領は、メドヴェージェフ露大統領と共に第2回ウクライナ・露地域間経済フォーラムに出席。ヤヌコーヴィチ大統領は、関税同盟との協力形式を模索していく旨発言。

・双方は、国境通過手順簡易化に関する政府間合意等、5つの二国間合意文書に署名。

・グリシチェンコ外相は、ドネツクにおいて、ラヴロフ露外相と会談、二国間協力、今後の訪問日程、アゾフ海・ケルチ海

峡の国境画定等につき協議。

▼18日、CIS首相会合(於露サントペテルブルグ)

・参加者は、CISの枠組みにおけるFTA創設合意に署名。
・アザーロフ首相は、プーチン露首相と会談、二国間関係、エネルギー、ロケット製造・宇宙、航空機製造分野における協力につき協議。

・20日、アザーロフ首相は、CISの枠組みにおけるFTAが2012年1月1日より発効するよう期待する、ウクライナは右により300億グリブナ分のGDPの成長が見込まれる旨発言。

▼19～20日、クリューエフ第一副首相兼経済発展・貿易相のブリュッセル訪問

・19日、クリューエフ第一副首相兼経済発展・貿易相は、デ・グフト貿易担当欧州委員と会談。デ・グフト欧州委員は、EU・ウクライナ間の深化した包括的自由貿易交渉は終了し、履行に関しては政治的要素次第と発言。

・20日、クリューエフ第一副首相兼経済発展・貿易相は、深化した包括的FTA創設合意に関する重要な部分について調整を終了した旨発表。

▼その他

・18日、チギブコ副首相兼社会政策相は、EUがウクライナの加盟を拒否する場合は、ウクライナが関税同盟へ方向転換することもあり得る旨発言。

・19日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナ・EU連合協定にウクライナのEU加盟の展望が記載されない場合、連合協

定の署名は延期することもあり得る旨発言。

・20日、アザーロフ首相は、ユーラシア経済共同体の技術規則を分析するよう経済発展・貿易省に指示。

4 . 防衛

▼セルジュコフ露国防相の来訪

・18日、ホンチャルク大統領補佐官兼国際関係総局長は、セルジュコフ露国防相が19日にウクライナを訪問、駐ウクライナ露黒海艦隊を含む多くの問題を協議する旨発表。

・19日、セルジュコフ露国防相は、エジェリ国防相とAn-70共同生産について議論し2014年までにロシアでAn-70の生産開始ができることを希望、またニトカ訓練施設使用についても議論し早期にロシアにリースするよう求めた旨発言。

・19日、セルジュコフ露国防相は、駐ウクライナ露黒海艦隊の安定運用のため2つの追加合意案を立案中であり、また露黒海艦隊の艦艇数の増加はないが一部を更新する予定である旨発言。

5 . 二国間関係

▼11～13日、衆議院震災復興特別委員会一行のウクライナ訪問

・チェルノブイリ原発視察、原発関係者との意見交換

▼16～19日、森文部科学副大臣のウクライナ訪問

・チェルノブイリ原発視察、原発・医療関係者との意見交換
・バイオテクノロジー・ギムナジウム視察、タバチニク教育科学相、アニシチェンコ保健相及びバローハ非常事態相表敬。

(了)